

2021年3月期 第3四半期 決算概要

2021年2月4日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹

おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況等があります。また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

四半期として売上・調整後営業利益ともに過去最高

(億円)

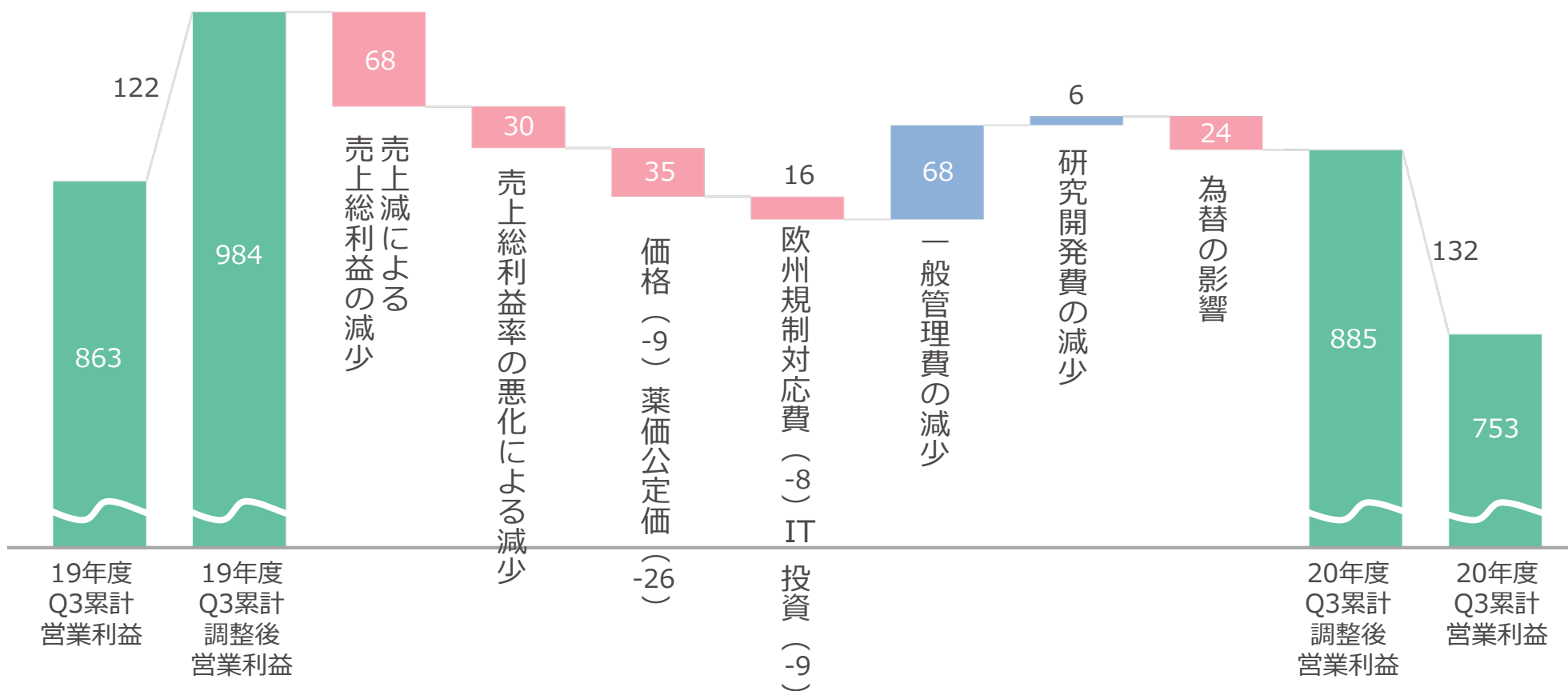
	19年度Q3累計	20年度Q3累計	増減率	為替除く 増減率
売上収益	4,701	4,486	-5%	-3%
売上総利益	2,586 (55.0%)	2,413 (53.8%)	-7%	-5%
一般管理費	1,368 (29.1%)	1,307 (29.1%)	-4%	-3%
研究開発費	370 (7.9%)	359 (8.0%)	-3%	-2%
その他収益費用	15	6	-	-
営業利益	863 (18.3%)	753 (16.8%)	-13%	-10%
調整後営業利益	984 (20.9%)	885 (19.7%)	-10%	-8%
税引前利益	855 (18.2%)	749 (16.7%)	-12%	
当期利益	669 (14.2%)	586 (13.1%)	-12%	

期中平均レート	USD	109円	106円
	EUR	121円	122円

- 売上収益：心臓血管の需要が着実に回復。他のカンパニーへの新型コロナ影響は依然として軽微
- 調整後営業利益：売上減少による減益。費用はメリハリをつけたコントロールを継続

調整後営業利益増減分析

(億円)



地域別売上収益

20年度Q3累計
19年度Q3累計

売上収益

100% = 4,486億円

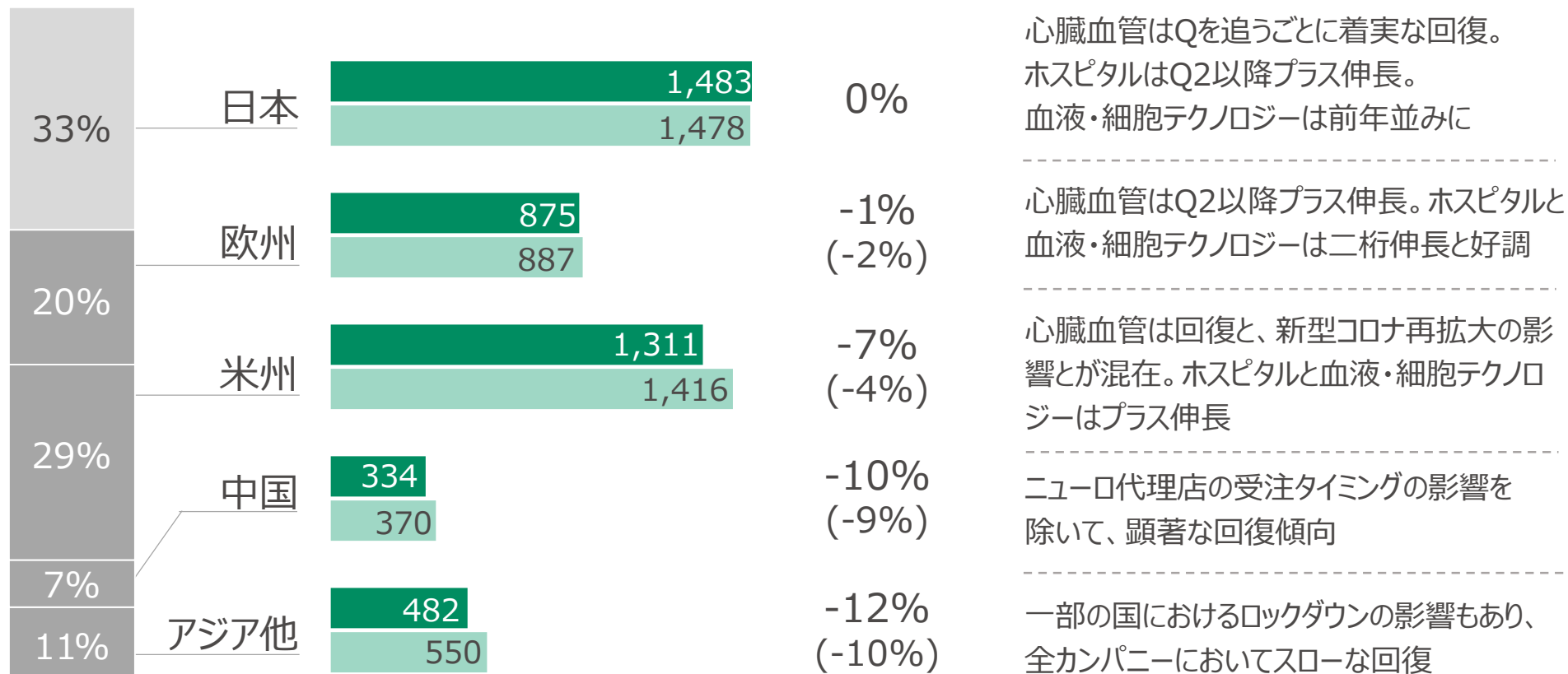
売上収益前年比較

金額(億円)

増減率

コメント

() 内は為替影響除く



カンパニー別売上収益

20年度Q3累計
19年度Q3累計

売上収益

100% = 4,486億円

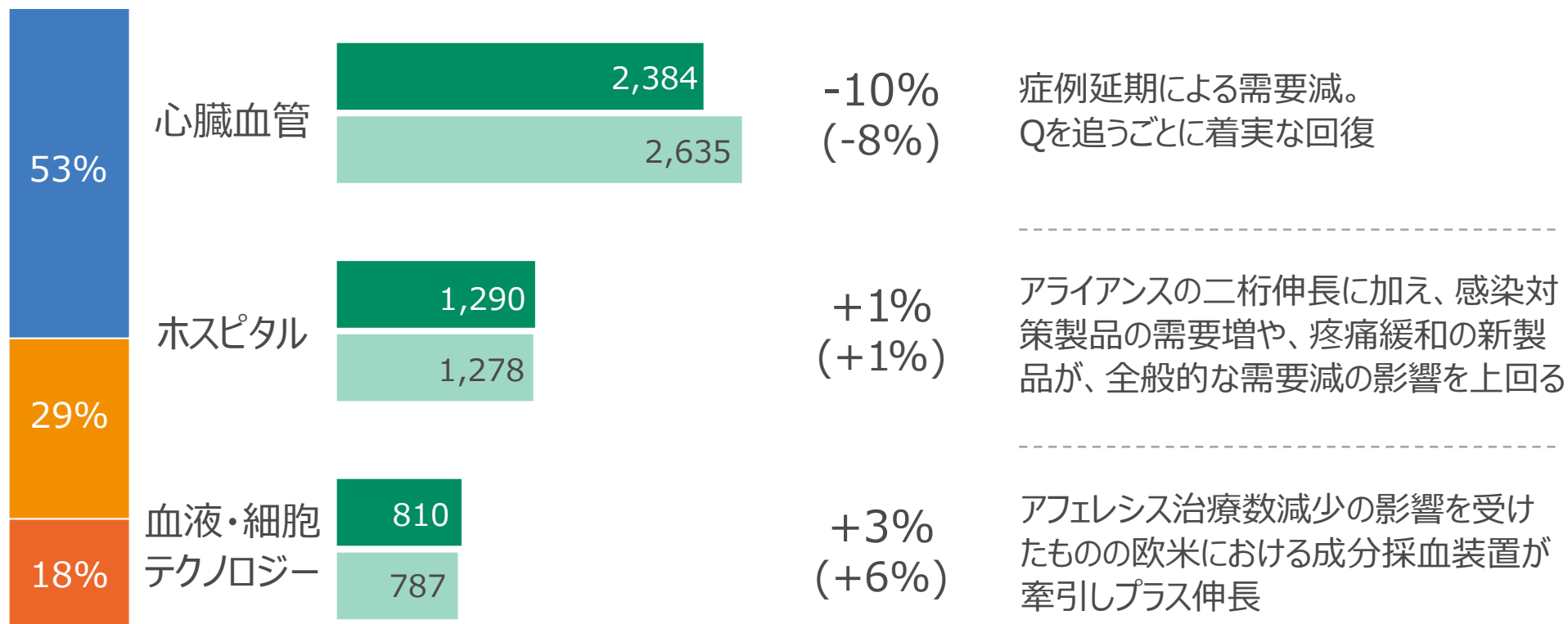
売上収益前年比較

金額(億円)

増減率

コメント

() 内は為替影響除く



心臓血管：症例数の回復が進む

(億円)

	19年度 Q3累計	20年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
売上 収益	2,635	2,384	-10% (-8%)	() 内は為替影響除く TIS : 製品群全般に需要減の影響も、Q2以降 一桁前半のマイナスまでに回復進む	-174
				ニューロ : 脳動脈瘤治療における症例数の 回復が進みQ3はプラス伸長に	-36
				CV : 症例延期による需要減の影響を 日本における装置売上増が緩和	-37
				血管 : Q2以降、プラス伸長を継続	-3
調整後 営業 利益 (率)	688 (26%)	560 (24%)	-19% (-16%)	売上減による減益。 Q3はTIS、ニューロの回復が進み製品ミックスが改善	

ホスピタル：アライアンスと感染対策製品で需要減の影響を跳ね返す

(億円)

	19年度 Q3累計	20年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
売上 収益	1,278	1,290	+1% (+1%)	医療器	: 診療制限のマイナス影響を 感染対策製品やポンプが緩和 -17
				医薬品	: 輸液剤の需要減を、新製品を 中心に疼痛緩和がカバー -8
				DM・ヘルスケア	: 体温計等ヘルスケア製品の需要増 +16
				アライアンス	: 日本・海外ともに二桁伸長を継続 +22
調整後 営業 利益 (率)	198 (16%)	205 (16%)	+3% (+4%)	ヘルスケア、アライアンスの好調な売上による製品ミックス の改善と、継続的な費用コントロールによりプラス伸長	

() 内は為替影響除く

血液・細胞テクノロジー：増収増益を継続

(億円)

	19年度 Q3累計	20年度 Q3累計	増減率	主なトピック	金額
() 内は為替影響除く					
売上 収益	787	810	+3% (+6%)	血液センター：新型コロナ回復期血漿に向けた 需要増に加え成分採血装置の 新ソフトウェアによる牽引	+31
				アフェシス治療：症例減の影響残るも、 Q3ではプラス伸長に	-6
調整後 営業 利益 (率)	104 (13%)	144 (18%)	+39% (+46%)	製品ミックスによる売上総利益増に加え、 費用コントロールが寄与し大幅増益を継続	

第4四半期の考え方

- Q4は欧米中心に新型コロナ再拡大による需要の減少が見込まれる
 - 欧米における症例延期の再開等、足元の環境は業績に対しネガティブ
 - ワクチン接種の開始や新型コロナへの対応力向上等プラス要素もあり、2020年4、5月ほどの悪化は想定しない
- Q1にBCP目的で積み上げた在庫を適正水準へ戻すため、生産稼働レベルの調整を開始
- 一般管理費は一定の抑制を効かせつつ、業績を見極めながら適切に投下
- 研究開発費は中長期成長の観点から、優先順位をつけてコントロール

業績予想の修正

(億円)

	従来 予想	今回 修正予想	修正額
売上収益	6,000	6,000	±0
営業利益 (率)	900 (15.0%)	975 (16.3%)	+75
調整後営業利益 (率)	1,080 (18.0%)	1,150 (19.2%)	+70
当期利益	680	750	+70

予想為替レート

USD 通期: 106円 Q4: 104円、通期: 106円
 EUR 通期: 121円 Q4: 126円、通期: 123円

- Q3に想定を上振れした分を織り込んだ修正
- 配当に関し、5月決算時に発表した予想から変更なし

主なトピックス

全社

25年連続でグッドデザイン賞を受賞



心臓血管

袋状脳動脈瘤塞栓デバイス「Woven EndoBridgeデバイス」を日本で発売



袋状脳動脈瘤塞栓デバイス
「Woven EndoBridgeデバイス」

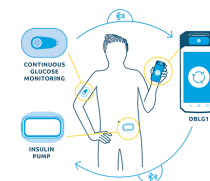
ホスピタル

テルモ山口で開発製造受託（CDMO）の生産能力を拡充



薬剤充填用注射器
「PLAJEX」

仏Diabeloop社とインスリン自動投与制御システムの共同開発契約を締結



インスリン自動投与制御システム
（イメージ）

パッチ式インスリンポンプ「メディセーフウィズ」がCEマーク認証を取得



パッチ式インスリンポンプ
「メディセーフウィズ」

血液・細胞 テクノロジー

自家細胞分離・調製システム「スマートプレップ」を日本で発売



自家細胞分離・調製システム
「スマートプレップ」

アフリカにおいて安全な血液製剤アクセスのための官民連携を開始



COALITION OF BLOOD FOR AFRICA

20年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ
心臓	ステーラブルシース	日	
	PTCAバルーン(Essen社製)	中	
イメージング	IVUSカテーテル	日	済み
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧	
	末梢血管塞栓用プラグ	米	
脳	血流改変ステント	日米	済み
	バルーン付きガイドカテーテル	欧	
	頸動脈用ステント	日	済み
	袋状塞栓デバイス (Woven EndoBridgeデバイス)	日	済み
カーディオ バスキュラー	次世代人工肺	日	済み
	人工心肺装置(再出荷)	日	済み
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル	済み

領域	製品	地域	ローンチ
血管	腹部ステントグラフト	米	済み
医療器	次期シリンジポンプ	日	済み
	次期針刺し防止機構付留置針	日	
	Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜	済み
医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日	済み
DM・ ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日	21年度に 延期
	血糖測定システム	日	済み
	次期体温計	日	済み

参考資料

20年度Q3累計 事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	366 (-4%)	2,018 (-9%)	599 (-7%)	916 (-8%)	268 (-12%)	235 (-12%)	2,384 (-8%)
うち TIS+ニューロ	263 (-8%)	1,665 (-9%)	488 (-7%)	736 (-7%)	247 (-14%)	194 (-12%)	1,929 (-9%)
ホスピタル	1,026 (+2%)	264 (-1%)	73 (+10%)	64 (+13%)	17 (-7%)	110 (-12%)	1,290 (+1%)
血液・細胞 テクノロジー	90 (-1%)	721 (+6%)	204 (+12%)	331 (+7%)	49 (+17%)	136 (-5%)	810 (+6%)
合計	1,483 (+0%)	3,003 (-5%)	875 (-2%)	1,311 (-4%)	334 (-9%)	482 (-10%)	4,486 (-3%)

() 内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	19年度 Q3累計	20年度 Q3累計	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	666	687	+21	+3%	+5%
販促費	146	86	-60	-41%	-41%
物流費	103	106	+3	+3%	+4%
償却費	139	142	+3	+2%	+4%
その他	314	285	-29	-9%	-8%
一般管理費計	1,368 (29.1%)	1,307 (29.1%)	-62	-4%	-3%
研究開発費	370 (7.9%)	359 (8.0%)	-11	-3%	-2%
販管費合計	1,738 (37.0%)	1,665 (37.1%)	-73	-4%	-3%

四半期の動き

(億円)

	19年度Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)	20年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)
売上収益	1,629	1,588	1,313	1,520	1,653
売上総利益	872 (53.5%)	853 (53.7%)	689 (52.5%)	816 (53.7%)	908 (54.9%)
一般管理費	472 (29.0%)	477 (30.1%)	401 (30.5%)	458 (30.2%)	447 (27.1%)
研究開発費	127 (7.8%)	136 (8.6%)	112 (8.5%)	119 (7.8%)	128 (7.7%)
その他収益費用	-2	4	5	-1	2
営業利益	271 (16.6%)	244 (15.3%)	181 (13.8%)	238 (15.6%)	334 (20.2%)
調整後営業利益	314 (19.3%)	266 (16.7%)	217 (16.5%)	296 (19.5%)	372 (22.5%)

四半期	USD	109円	109円	108円	106円	105円
平均レート	EUR	120円	120円	119円	124円	125円

調整後営業利益：調整額

(億円)

	19年度Q3累計	20年度Q3累計
営業利益	863	753
調整① 買収無形資産の償却費	+119	+108
調整② 一時的な損益	+3	(※) +24
調整後営業利益	984	885

※ 調整項目

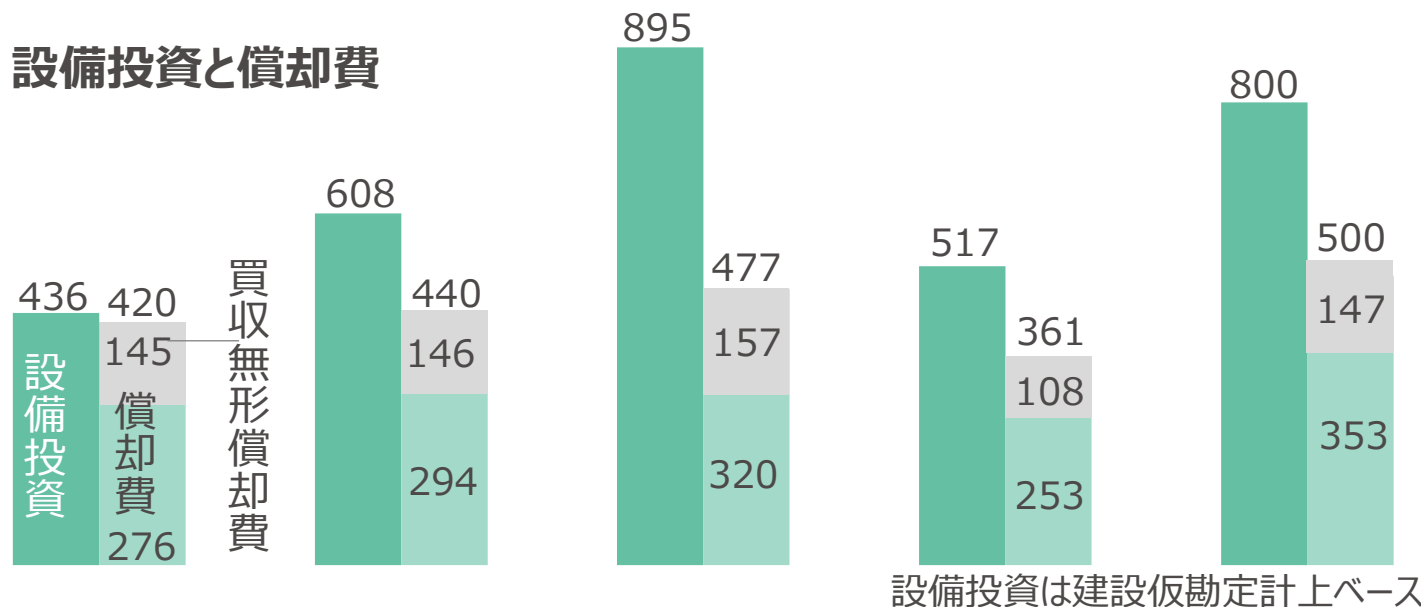
- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

(※)20年度Q3累計 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編費用	+4
その他	+20

設備投資、償却費、研究開発費

(億円)

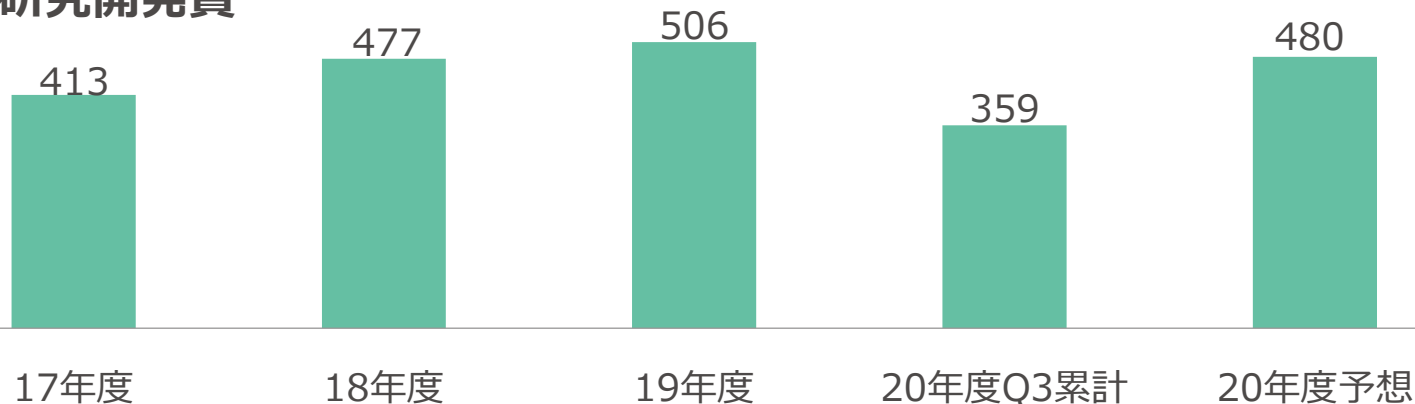
設備投資と償却費



19年度・20年度実績・予想にはリース償却 (IFRS16)含まず

20年度は、増産設備、生産スペース、R&D投資、IT投資を継続

研究開発費



主にカテーテル、ニューロ、血液・細胞テクノロジーの開発活動を促進

開発費の資産化は設備投資に含む

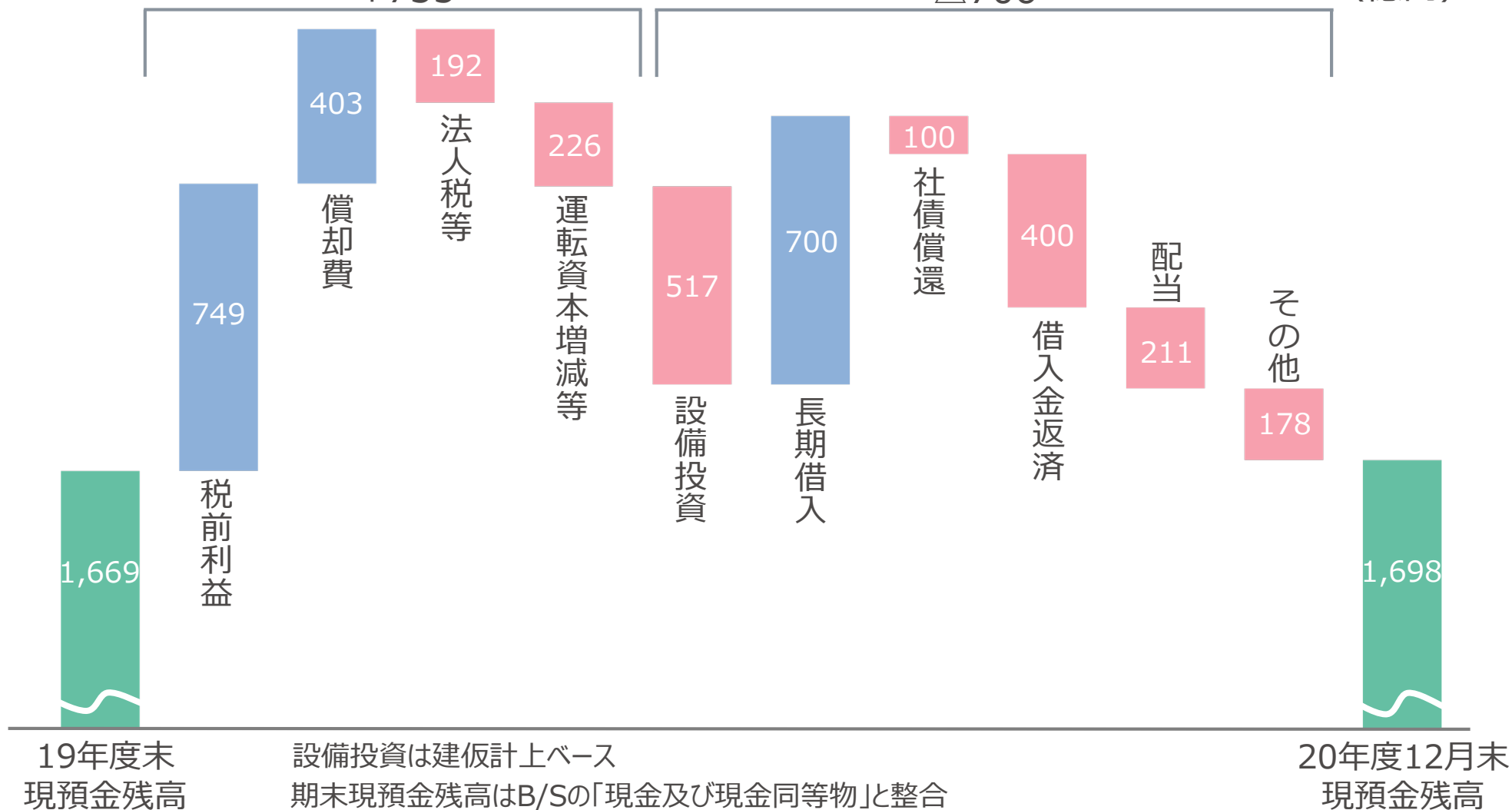
18年度 : 24億円
 19年度 : 48億円
 20年度Q3累計 : 43億円
 20年度予想 : 54億円

キャッシュフロー

営業キャッシュフロー
+735

投資・財務キャッシュフロー
△706

(億円)



為替感応度

1円の円安に対しての年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

＜参考＞ 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

転換社債の状況

社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,912	2,486	約26百万株
計	1,000				約52百万株

転換状況 (2021年1月31日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	490億円 (98.0%)	25百万株 (3.4%)
合計	990億円 (99.0%)	51百万株 (6.8%)

転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況： 4百万株(2021年1月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比0.5%)



Stride Ahead
100th